

2019 出展票

チーム『農福連携：訪問かいこ&和紙作り』

1. 出展者

チーム名	農福連携「訪問かいこ」
出展法人	東京農業大学
実行責任者（リーダー）	川嶋 舟（東京農業大学 農学部 准教授 獣医学博士）
協力スタッフ	東京農業大学の学生サポート

2. 出展内容

「見る」プログラム

<概要>

高齢者や障がい者が蚕の世話をを行う「訪問かいこ」には心身の健康や社会的にも有用性があります。かいこの一生から特性、なぜ蚕を使うのかということなど様々な角度から紹介します。世話することだけでなく蚕の作るシルクにもたくさんの価値があります。今までの糸としての活用だけでなく、パウダーや液状にして化粧品などにも使われています。

また、蚕の食べない桑の小枝も和紙作りなどによって有効活用する取り組みも始まっています。

このように新たな価値を生み出す農福連携の動きが広がってきています。



桑(クワ科クワ属)



どんな植物？

カイコの餌である桑。かつて日本では養蚕をするため、多くの家で桑が育てられていました。そんな“カイコの餌”というイメージの多い桑には実は驚くべき機能があったのです！

なにがすごいの？

桑の葉っぱには血糖値が上がるのを抑える特別な物質（デオキシノジリマイシン）が含まれていることがわかりました。そんな桑の中でもカルシウムなどの物質も多く、何よりおいしい品種が見つかりました。そんな桑の葉パウダーを使った和菓子なども販売され、機能的なのにおいしい“人間のための”食品としても利用されているのです！



桑で和紙作り



桑の小枝を和紙に！

桑の葉っぱはカイコの餌や食用として使われています。しかし桑の枝は今まで捨てられていました。“桑の小枝を高齢者や障害者の手によって和紙に生まれ変わらせてしまおう！”そんな考えから桑の和紙作りを行っています。

なにがすごいの？

職人さんが作るような和紙作りは手間と時間がかかります。中には危険な工程も…。そんな和紙作りを高齢者や障害者に作ってもらうために簡単かつ速く、安全な方法でできるように考えました。そして出来上がった和紙を売ることによって生産者はお金をもらえて社会が豊かになり、心身の健康にもつながります。無駄をなくして環境にやさしく、みんなが元気に楽しく暮らせる社会。この取り組みはそんな社会に近づけられる取り組みなのではないでしょうか。



以上